「いわての復興教育推進事業（交流学習スクール）」成果報告書

学校名：宮古市立第一中学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

本校では、復興教育目標の一つに、「郷土を愛し、誇りに思う心を育てるとともに、復興・発展を支える人材を育成する」というものがある。この目標を達成するためには、様々な地域の方々と交流し、その中で、改めて自分の郷土のことを見つめなおす機会が必要である。

本校が行っている内陸部の学校との交流（仲間や地域の人々とのつながり）によって、確実に生徒たちの郷土愛が育てられ、更には復興・発展を自ら支えようとする使命感が現れてきている。

今後も他校生との交流を継続し、自分たちの故郷を支える人材の育成を目指す。

本事業は、本校がこれまで行ってきた他校との交流活動の幅をさらに広げ、より大きな効果が期待できるものと考え、以下の事業に取り組んだ。

Ⅱ　取組の概要

【1年次1学期「地域を知る」体験学習】

1　宮古地区の産業や文化を学び、地域に生きる人々との触れ合いを通して、自分を見つめる機会とする。

2　震災前の宮古の様子、その後の復興の様子を自らの目で確かめ、自分たちにできることを探る。

＜地域を知る総合的な学習の時間の実践～体験学習～＞

昨年度は、「宮古発見～復興の努力を探ろう～」をテーマとして地域に生きる人々との触れ合いや復興の様子を自らの目で確かめることを通して、復興に近づいてきた宮古の私たちが知らなかった隠れた努力を探ることができた。また、学習したことを学校生活やボランティア活動、さらには、自分たちができることを行動に移していくことが重要だということも学ぶことができた。

この体験後、「今、わたしたちにできることは」をテーマとして、自分たちが住む宮古地区でも大きな台風被害を受けた岩泉地域での清掃活動やボランティア活動を行うこととし、自分たちができることを行動に移すとともに、何が必要なことなのかを学ぶことができた。また、震災学習をさらに深めながら、内陸部の学校との交流を行い、復興や防災について、自分たちにできることは何か考えさせるきっかけとなった。

【1年次2学期「地域を知る」体験学習】

1　宮古市の震災時の様子を学習し、地域で生きる人たちの生き方を通して、自分たちに今できることを考えさせた結果、同じように台風被害を受けた岩泉でボランティアを行い、自分自身を見つめなおし、よりよく生きようとする姿勢を育てる。

【宿泊研修】

1　集団での共同生活や様々な研修活動を通して、望ましい集団生活について考え、ルールを守ることの大切さや自治の力を身につけさせる。

2　昨年から行っている「震災学習」をさらに深め学校交流で復興教育や防災教育等の発表交流を行い、自分たちにできることは何か考えさせる「つながる∞つなげる」

3　「いのちの講話」から、震災時の想いを受け止め、震災を風化させないために自分たちにできることは何かを探る。また、宮古市の復興のあり方や社会貢献の生き方を探る。

＜矢巾北中学校との交流学習＞

矢巾北中学校との学校交流では、震災当時の話や宮古市の現在の復興状況、自分たちが復興を目指して行ってきたボランティア活動、内陸に位置する地域と海沿いに位置する地域に起こる災害の違い、災害から身を守る工夫についてなど防災に係る発表も行い、それぞれの地域での工夫ある暮らしを学んだり、地域への愛着を深めたりするよい機会となった。また、震災後に福島県南相馬市の中学校で誕生した曲「群青」も披露し、合唱交流も行うことができ、さらにこれから自分たちにできることは何かを考えることにつなげることができた。

「つながる∞つなげる」を真剣に考えることの

できる素晴らしい交流会となった。

＜命の講演会の開催＞

盛岡市教育委員会生涯学習課社会教育指導員の佐賀敏子先生を講師に招き、震災に関わっての「いのちについての講話」をいただいた。14年前に「命のバトン」を受継ぎ、この世に誕生したこと。7年前の東日本大震災でその命が助かったこと。さらには、命は目には見えないが、「心・知（考える力）・体」がまるごと「命」だということ。

その命の尊さを感じ、思い、鍛え、伝え、守り続けることが「命を輝かせる」という内容の講演会だった。

子どもたちが忘れかけていた震災時の想いや記憶を思い出させ、震災を風化させないために自分たちにできることは何かを改めて考えさせることができた。また、同じ災害を体験した自分たちとの違いやたくさんの命をつないで自分たちが生きているということを感じさせることができた。

講師　佐賀　敏子　氏

【２年次　職場体験学習】

＜地域との連携「職場体験学習」＞

「地域とともに生きる」をテーマとし、宮古市で真摯に働いている方々の職場を訪れ、震災当時や台風被害から立ち上げた時の様子と復興への立ち上げに向けての取組み、また、自分たちの住む街宮古市を元気にするための取組み等の話を聞き、自ら働く体験を通して、働く喜びや楽しさ、大変さを感じ働くことの意義を知る。そして、震災の復興から立ち上げてきた人たちの姿を学び、自分たちの生き方を見つめ、故郷宮古を大事にすることで、自分たちにできることは何かを考えることができた。

Ⅲ　取組の成果と課題

１　成果

- 系統的かつ実践的な復興・防災に関わる活動の充実によって、生徒の復興や災害に対する具体的な行動や相手を考えた活動ができるようになってきている。
- 他校との交流や命の講演会で、震災時の想いや震災を風化させないために自分たちにできることを考えることができた。また、宮古市の復興のあり方や社会貢献の生き方も探ることができた。
- 地域や家庭との連携・協力が深化したことにより、復興・防災に関わる教育活動により、郷土を愛し、復興・発展を支えようとする思いを醸成することができた。

２　課題

- 震災の直接体験が薄い生徒、心のケアが必要な生徒等、より実態に即した復興教育の在り方を検討する必要がある。また、震災を風化させないためにより具体的でなおかつ工夫された活動が必要である。
- 復興教育の観点を基に、各教科等における復興・防災教育の充実を図るための計画的・組織的な年間指導計画の吟味が必要である。
- 来年度以降も地域における生徒たちの関わりや復興に関する取組みの在り方を検討、調整していく必要がある。
- 他校との交流学習は生徒たちの郷土愛が育てられ更には復興・発展を自ら支えようとする使命感が現れている活動と考えているが、学校間交流を引受ける学校が県内には少なくなってきている現状にある。したがって、今後も他校生との交流を継続させ、自分たちの故郷を支えていけるような人材を育成していくためには県外の学校間交流も考えていく必要がある。